

2016.03.07：平成28年度 予算等審査特別委員会（第9日目） 本文

○菅原正和委員 私からは、生涯学習課が取り組む新しい事業、アート・ノード・プロジェクトについて数点お伺いいたします。

昨年10月25日に、現在仙台市が取り組んでいる、また検討している重要プロジェクトの現状評価をしてもらい、よりよい施策とするために各課題に対して意見や提案をいただくことを目的とした、市民まちづくりフォーラムが開催されました。テーマの中に文化芸術によるまちづくりということで、意見が交わされたとのこと。専門家からは、文化政策をまちづくりにつなげていくには、美術館、劇場に集まる愛好家だけを対象にしていただけではだめで、芸術を産業や教育とマッチングし、地域の活性化や課題解決につなげていく創造都市は世界的なトレンドであり、国内でも世界最大規模の大地の芸術祭、越後妻有アートトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭など、巨大な成功事例が生まれている。仙台は、音楽に比べ、やや印象が薄い美術、工芸、文芸、映画などのジャンルでも、市民参加型のプログラムをアートや伝統工芸でも展開し、市民力を生かしていけば、楽都仙台の次のステージとして創造都市仙台の可能性が見えてくるという話をしています。

まず、生涯学習課が初めての事業として取り組むアート・ノード・プロジェクトとはどんな事業なのか、そもそもノードとは何なのか、お伺いいたします。

○生涯学習課長 このプロジェクトは、せんだいメディアテークが持っておりますノウハウを生かし、地域においてアーティストが滞在して作品を制作する、いわゆるアーティスト・イン・レジデンスによりまして、まちの魅力と人々の活気を引き出すようなアート事業を、市民とともに実施することを考えております。また、著名なアーティストやディレクターなどによるトークイベントを開催し、アートで学ぶ場も設けてまいりたいと考えております。

なお、事業名のノードとは結節点という意味でございまして、アートと市民をつなぐ接点、ノードとなるという、せんだいメディアテークの施設の運営の理念を取り入れたものでございます。

○菅原正和委員 では、平成28年度予算3000万円はどのような内容となっているのか、お伺いいたします。また、事業の実施体制はどう考えているのか、あわせてお伺いいたします。

○生涯学習課長 平成28年度予算につきましては、数名のアーティストを招聘するための経費や、公開ミーティングや連続トークセッションの開催などの経費のほか、アーティストが活動したり、あるいは市民が交流するための拠点を設けるための経費などとなっております。

また、実施の体制につきましては、せんだいメディアテークが事業主体となって実施することを考えております。

○菅原正和委員　では、この事業を始めることにした背景と理由についてお伺いいたします。

○生涯学習課長　今年度、メディアテークを核としたアート事業並びに人材育成事業調査を実施いたしまして、新たな事業の可能性を模索していたところでございます。その中で、地域で活動する方へのヒアリングなどを行った際の意見や要望から、新たなまちの魅力をつくり出すためには、若い世代の活力を引き出し、せんだいメディアテークの経験と実績を生かしたアート事業を館の外で実施することとしたものでございます。

○菅原正和委員　横浜や新潟など全国各地で行われている国際的な芸術祭、ビエンナーレやトリエンナーレと同じようなものを考えているのか、お伺いいたします。

○生涯学習課長　何十人ものアーティストを招聘して制作あるいは展示する国際芸術祭とは、予算規模などにおきまして異なるものになるものと考えております。この事業では、数人あるいは数組のアーティストが特定の地域に滞在し、市民と交流し、さらには制作のプロセスを共有する、あるいは制作の過程を公開して見せる事業などを想定しているものでございます。

○菅原正和委員　今のお答えの中で、アーティストが地域に滞在とありますが、その地域に通ってくるものなのか、住民として住居を構えるのか、住居を構える際にはその手当てはどうするのか、お聞きいたします。

○生涯学習課長　具体的には、今後、招聘するアーティストとその内容につきまして協議をしていくこととなりますが、例えば、地域に交流や制作の場となります拠点を設けまして、その拠点に宿泊あるいは滞在できるスペースもつくることができると考えているところでございます。地域によりまして可能な場合とそうでない場合もございしますので、その辺は柔軟に対応してまいりたいと考えております。

なお、アーティストが滞在するために必要となる基本的な経費は、本予算に含まれているところでございます。

○菅原正和委員　市民と交流しながら作品なりいろいろなものを仕上げ、まちのにぎわいづくりをするという構想は、大いにいいものと感じますが、アーティストと市民をどのような形で結びつけていくのか、具体像がいまいち見えないのであるが、先ほどの答弁でメディアテークの実績と経験があるとありましたが、実際どんな実績があるのかお示してください。

さらに、地域にはいろいろな団体があると思うが、どんなところと連携していくのか、その辺はどう考えているのか、お聞きいたします。

○生涯学習課長　せんだいメディアテークにおきましては、地域とかかわる最先端の現代アートを継続的に取り上げまして、仙台発の本格的な展覧会として実施してまいりました。例えば、平成20年度には、卸商センターの御協力によりまして、卸町の倉庫でアーティストが滞

在制作を行いました、大学生などのボランティアが作品づくりに参加し、メディアテークでの大きな休息という展覧会の開催につながりました。

また、市民やアーティストとともに震災からの復興を記録いたします、3がつ11にちをわすれないためにセンターなど、メディアテークならではの文化による震災復興の取り組みを実施してまいりました。

こういった経験を生かしながら、新年度の事業実施に当たりましては、まずは地元のNPO、大学、商店街あるいは町内会など、さまざまな団体と議論を深めながら、一緒にプロジェクトを進めていくという形をつくってまいりたいと存じます。

○菅原正和委員 アーティストが滞在し作品を制作するというを考えているようですが、どこか具体的な場所は既に構想の中に入っているのか。私たちは、地下鉄東西線なり南北線なり、おり立つ楽しみをつくり出すものを選定の場としたらいいと思うが、どんな場所を予定しているのかお伺いいたします。

○生涯学習課長 ただいまございました地下鉄の東西線や、あるいは南北線の沿線も候補地と考えてございますが、そのほかにも、中心市街地、あるいは沿岸部、中山間地など、市内のさまざまな場所が想定されます。具体的には、今後、招聘いたしますアーティストと相談して決めてまいりたいと思います。

○菅原正和委員 具体的な場所を見つけ作品を制作するには時間がかかると思うが、どのようなスケジュール感で臨むつもりなのかお伺いいたします。

○生涯学習課長 事業全体のスケジュールにつきましては、3年間を一つの期間として運営を想定しておりまして、3年目にはその期間における事業実績を検証し、次の期間へつなげてまいりたいと考えております。

○菅原正和委員 3年を1期ということで、場所の選定から始まり、住民との交流形成、どんなことをやっていくのかなど、解決すべき点が多々あると思うが、その辺の見込みは大丈夫なのでしょうか。

○生涯学習課長 基本的には、まず1年目には、アーティストとともに地域の特性あるいは魅力や課題などのリサーチを行いまして、作品の制作場所、展示方法など、検討、協議を進め、その様子なども情報発信してまいりたいと考えております。2年目につきましては本格的な制作に進みまして、3年目に成果を発表するというのも考えておりますが、その制作過程も公開するなど、地域の方々とも相談しながら、一緒につくり上げていきたいと考えております。

○菅原正和委員 実験的事業のように見えるが、どのような実施効果を考えているのかお伺いいたします。

○教育長　　せんだいメディアテークにおきましては、これまで国内外のアーティストによる展覧会などを企画、実施してまいりました。この事業は、そこで培った人脈やノウハウを生かして、外に向けて発信する事業であると考えております。

この事業により、アート作品の制作や、市民との協働によるプロジェクトの過程での学び、先進的な考え方に触れることなどによりまして、まちづくりに携わる人材が育ち、アートやクリエイターなどを志す若者を初めとする方々が、仙台のこの地で活動し、活躍できるような、非常にいい機会の場となるものと考えているところでございます。

○菅原正和委員　もしよろしければ、この新たな事業に取り組む奥山市長のお考えをお聞きしたいと思っております。よろしく申し上げます。

○市長　　せんだいメディアテークにつきましては、その建築が世界的にも高く評価をされてまいりました。また、今、担当のほうからも御紹介がありましたように、国内外のアーティストによるさまざまな展覧会も行われましたし、また、震災後には、3がつ11にちをわすれないためにセンターの取り組みなど、市民の皆様とアーティストの方々が共同してさまざまな事業に取り組んでまいったというふうと考えております。

開館から15年となりますが、この機会に、これまでの経験を生かして、さらにこの仙台の各地域において、まちの魅力をつくり出して、それを市民の皆さんと共有、発展させていくと、そうした事業としてこのたびのアート・ノード・プロジェクトが立ち上がるものと考えておりまして、そうしたアート・ノード・プロジェクト事業により仙台の魅力が新たに磨き上げられて発信していくことを期待しているものでございます。

○菅原正和委員　次の質問に移らせていただきます。

仙台市は市民協働のまちづくりを進めていますが、幅広い世代の人たちにまちづくりにかかわってもらうことがまず大切であるが、これからの仙台市を担う上で若い世代の参画が必要だと考えています。そうした視点から、市民センター（拠点館）事業に関する経費のうち、若者社会参画型学習推進事業費及び子ども参画型社会創造支援事業費について質問いたします。

まず、これらの事業はどんなものなのか、概要をお伺いいたします。

○生涯学習支援センター長　若者社会参画型学習推進事業は、地域社会の一員として自主的、主体的に行動できる人づくりを目指して、おおむね10代後半から30代前半の若者を対象に、各区中央市民センターで平成22年度より実施しております。

また、子ども参画型社会創造支援事業は、将来的に地域で活躍できる人づくりを目指して、小学校3年生から高校生を対象に、各区中央市民センターが区内の地区市民センター等と連携して平成23年度より実施しております。

両事業とも、自分たちで主体的に地域の課題について学習し、ボランティアやイベントの企画実施などの活動を行っております。

○菅原正和委員 先日、私もせんだいメディアテークで開催された若者社会参画型学習推進事業の報告会を見学する機会がありました。地元若林区の取り組みに対してはある程度理解はしておりましたが、若林区の小中学生を対象とした若林区のまちづくりと一緒に考えていこうということで、夢プラン若林という団体で私は市民活動をしていました。活動に際し市民センターの協力があり、活動がスムーズに進んでいたことを記憶しております。

まず、報告を聞いていて、携わっている職員の意欲の高さがかいま見えました。社会教育主事という肩書のもと、職員の皆様に、教える、一緒に学ぶ、つくり上げるが基本にあるように感じました。報告を聞いてみると、事業に参加した若者たちの発表から、地域に寄せる思いや活動への意欲などが伝わってきました。

若者、子どもの事業とも実施して数年ということだが、これまでどんな成果があったのかを教えていただけませんか。

○生涯学習支援センター長 若者たちは、みずからイベントを企画、実施したり他のイベントを手伝う中で、地域や他の団体とかかわる機会がふえ、コミュニケーション力や協調性などが少しずつ身につく、自己有用感や充実感を味わうことで、地域への関心を持つようになっております。

子ども参画型事業でも、自分たちの地域のよさをもっと知りたいという意欲が生まれ、さまざまな活動に積極的にかかわることができるようになったことが成果と考えています。また、子供たちが地域に出て活動することで、地域の方々が子供たちの活動を知り、それを支援する動きが地域づくりにつながっていくという事例も見られるところです。

○菅原正和委員 市民センターの中で、地域にかかわる活動やボランティア活動といえば、従来から取り組まれているジュニアリーダーという事業があると思いますけれども、ジュニアリーダーとこれらの事業がどう結びついているのか、あるいはどんな関係なのか、お伺いいたします。

○生涯学習支援センター長 ジュニアリーダーは、主に地域の子供会活動の活性化を目的に活動している中学生、高校生ボランティアですが、近年はさまざまなボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。自分自身の成長や地域の活性化に役立つ活動であるという点で子ども参画型事業と通じるところがあり、実際にジュニアリーダーがこの事業に協力している例もございます。

今後は、子ども参画型事業の受講者がジュニアリーダーとなってボランティア活動を続け、さらには若者参画型事業へ進むなど、切れ目のない人材育成事業とすることも意識して取り組んでまいりたいと存じます。

○菅原正和委員 子ども参画型事業からジュニアリーダーへ、さらに若者参画型事業にというように流れをつくり出し、かかわる子供がステップアップしていける仕組みは大いに期待するところです。まちづくりにかかわる土壌を形成する人材育成は短期間ではできないし、適切

な支援、アドバイスがなければ、子供にとっては途中意欲を失ってしまうことがあります。市民センターが持ち合わせているノウハウを十分活用しながら、長期的な視点で支援をしていただくことが、まちづくり、ひいては市民協働事業の推進にもなります。しかし、これまでの事業を進めてきて、課題や問題点も出ていると思うが、課題と問題点があれば、考えている点をお聞かせください。

○生涯学習支援センター長 両事業とも年間を通じた活動であり、時間が多くとられることから、受講者が少ないという課題があり、受講生確保のため、事業内容をまとめたリーフレットを小中学校に配布したり、各大学で事業紹介を行い、参加を呼びかけているところです。特に、若者参画型事業につきましては、社会人の受講者が少ないため、地域に根づいた事業展開、継続が困難となっております。今後は、社会人の参加を視野に入れ、企業等との連携も検討していきたいと考えております。

また、事業内容によっては、受講者が授業に参加するだけにとどまり、主体的に企画、運営にまでかかわる参画にまで至っていないというケースもあり、受講者の活動を参画にまで高めるための継続的な事業展開や働きかけの手法の検討が必要と考えているところでございます。

○菅原正和委員 大人でも、いきなり参画は難しいと思います。子供のうちからいろいろな体験をしながら、経験を積んで、土壌づくりをすることで、参画できるようになると思います。子供たちや若者が学んだことを実践する場やまちづくりを体験する場が必要だと思うが、仙台市として、若者参画型事業、子ども参画型事業が市民協働のまちづくりの担い手づくりのベースになっていくような事業になっていくことを期待するものですが、平成28年度はどのような展開を考えているのかお伺いいたします。

○教育長 平成28年度は、これまでの成果や課題をまとめ、今後の事業のあり方、進め方を、平成29年度以降の効果的な事業実施に向け、検討しながら実施していくこととしております。

両事業は、受講者自身の自分づくりを支援するだけでなく、今後、人口減少社会を迎える本市において、将来的に地域社会で主体的に活躍できる人づくりを目指すものでございます。事業実施に当たりましては、受講者の成長段階を見ながら、地域の中でさまざまな体験を積むことが重要だと認識しておりまして、関係部局で実施している各種まちづくり事業や市民協働事業等との連携も含めて、事業をさらに進めてまいりたいと存じます。

〔渡辺博委員、質疑席に着席〕